

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3571500366		
法人名	医療法人 竹内医院		
事業所名	グループホーム 夜市のんた		
所在地	山口県周南市夜市720-1		
自己評価作成日	平成28年9月25日	評価結果市町受理日	平成29年6月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年10月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

福祉と医療が一体となり、認知症の方がその人らしく、いきいきと暮らしていただけるよう取り組んでいます。また、個別の生活パターン・ペースを尊重し、お一人おひとりと深い関わりを保つよう努めています。地域の方々や小学校とも年中を通し行事等を中心として日常的に交流を持たせていただいております。事業所としては周南市認定のAED設置施設として地域の方々の安心の場としての役割も担っています。経営母体が医療機関なので、緊急時の対応や定期的な往診があり安心して日々の生活を送っていただけます。また、ターミナルケアも段階に応じ行なっております。当グループホームにおいては山口県実習施設として委託をうけており、実践者研修や実践リーダー研修など年間を通し多くの方が実習に来られることで、入居者との交流や職員の研修の機会になっています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

職員は、日々の関わりの中での利用者の言葉や様子、心身の状況などを、センター方式を活用されて細かく記録され、一人ひとりの思いや意向の把握に努めておられ、個別支援ができるように介護計画を作成されています。テレビやDVDを視聴されたり、歌を歌われたり、新聞や本、雑誌を読まれたり、公文学習やリハビリ体操、プランターでの花や野菜づくり、テーブル拭きや掃除など、楽しみごとや活躍できる場面づくりをされ、利用者一人ひとりでできることやしたいことができるように支援しておられ、喜びや張り合いのある日々が過ごせるよう取り組まれています。年2回、消防署の協力を得られ、拠点施設合同での夜間を想定した避難訓練を地域住民(運営推進会議メンバー)の参加を得られて実施しておられます。事業所の緊急連絡網に地域住民の加入がある他、地域の防災会議に施設長が出席され、災害時の協力について話し合われているなど、地域との協力体制を築いておられます。事業所は地域の一員として、日常的に地域と交流されています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:29)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所として掲げている理念に則り、月1回の定期カンファレンスや日々の業務の中で連携を取りながら、ホーム理念の再確認、ケア、業務の見直し、改善等行なっている。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示して、職員会議の勉強会で、理念の意識づけをしていき、全職員で理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム職員は日常的に地域の方々との交流を持ち、行事等を中心に利用者と地域を結ぶ架け橋作りに努めている。また、地域の自治会に加入しており、地域行事にも積極的に参加している。	自治会に加入している。利用者は地元の敬老会に参加している。地域の文化祭には、利用者と職員と一緒に見学に行き、地域の人と交流している。拠点施設合同で祭りを開催し、子どもたちや地域住民の参加を得ている。祭りでは、カレーや焼きそば、あげたこなどを提供したり、ビンゴゲームや小学生の歌と踊りなどがあり、利用者と家族、地域の人と一緒に楽しんでいる。併設施設(デイサービスセンター)に来訪しているボランティア(フラダンス、ハワイアン、日本舞踊、童謡)の演技や歌を見学している。事業所には、傾聴ボランティア、公文の先生、リハビリ体操の先生が来訪している。中学生の体験学習や大学生の実習の受入れをしている。地区の老人会に出かけ、認知症サポーター養成講座を開いたり、散歩時に地域の人と挨拶を交わしたりしているなど、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の老人会やボランティアの方々に必要な時施設の見学や活用、地域との交流の場として施設の開放をしている。また、認知症に関する勉強会などを企画し、地域の方々にも参加を呼び掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者、職員は自己評価を考え話し合う機会を設け、外部評価を受けることで日々のケアや業務などの改善の機会としている。また、評価後にカンファレンスを開き、改善点など確認し、今後を活かしていきけるよう取り組んでいる。	評価の意義について、施設長が職員会議で全職員に説明している。職員は、評価するための書類に、外部評価項目のみ記入し、施設長がまとめている。前回の外部評価結果を受けて、運営推進会議のメンバーの拡大や応急手当や初期対応の訓練について、目標達成計画を立てて話し合っているが、改善には至っていない。自己評価や評価項目について、全職員が理解しているとは言えない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の意義と項目の理解</li> <li>・評価を活かした取り組み</li> </ul>
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域の方々、介護相談員、市介護福祉課職員、家族などが参加し事業所が行なっている様々な行事や取り組みを報告する機会としている。会議のメンバーの方々にも事業所の行事など参加してもらう機会を持っていただいている。	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の状況や事業所の取り組みなどを報告し、意見交換している。市の担当者からの情報提供や説明、地域からの行事の情報や地域防災副会長から防災訓練についての説明、駐在所員から、地域での交通事故や高齢者詐欺事件などの情報提供があり、話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域メンバーの拡大</li> </ul>
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と1頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの介護相談員を受け入れている。また、必要に応じて市の担当者と情報交換を行いサービスの向上に役立てている。	市の担当者とは、運営推進会議時に情報交換したり、電話や直接出向いて相談をして、助言を得ているなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会で学ぶ機会を設けており、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	職員は、法人研修や山口県宅老所・グループホーム協会、周南市西部研修などで、身体拘束について学び、理解しており、拘束や抑制をしないケアを実践している。スピーチロックについては、施設長が注意している。事業所の玄関は施錠しないで、外に出たい人には職員が一緒に出かけて支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会で学ぶ機会を設け、管理者及び職員が共通理解した上で日々のケアに取り組んでいる。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があると考える利用者がおられる場合に家族、及び関係者と相談し、アドバイス等行なっている。また、権利擁護に関する研修への参加できるように努めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時に契約に関する説明の機会を必ず設け、不安や疑問点の解消に努めている。また、面会時や家族会等の機会にも必要に応じて説明を行っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者および家族から苦情が出た場合、定める苦情相談窓口や第三者機関を通して、定例カンファレンスの機会や、家族会、運営推進会議等にて検討する機会を持つように体制を整えている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。毎月の利用料支払での来訪時、面会時、運営推進会議時、祭りや花見などの行事の時、家族会時、電話などで、家族の意見や要望を聞いている。面会時に利用者の状況について詳しく家族に伝えている。市の介護相談員が月1回来訪し、利用者から話を聞いて職員に伝えている。運営に反映させるまでの意見は出していない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期カンファレンスなどを開き意見を聞く機会を設けている。また、日頃から職員の意見や提案を聞く機会を持つよう努めている。	施設長は、毎月の定期カンファレンスで職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日々の業務の中で聞いたり、スタッフ連絡ノートに記入して確認している。利用者や職員の状態に合わせての業務の見直しの意見があり、その都度対応している。職員の増員の要望や介護技術、認知症について学びたいなどの意見が出ている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤労実績等を把握し、個々が仕事に対する向上心を持って働けるよう能力に応じて環境や条件の整備を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員に対し、現状の知識、技術に満足することなく医療的な知識やより高度な介護に関する情報を得る為、事業所内外の勉強会や研修へ参加する機会を積極的に与え、職員一人ひとりがより高いレベルに達成できるよう努めている。	外部研修は、職員に情報を伝えているが、この一年間は、参加していない。法人研修は、年2回、接遇、虐待防止、権利擁護についてと介護保険制度についてなど行っている。内部研修として、年3回、定期カンファレンスの中で、認知症についての勉強会を実施し、施設長が講師を務めている。新人職員には、先輩職員が働きながら学べるように指導している。	・研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は山口県宅老所・グループホーム協会に加入し、周南市西部地区や光・下松地区のグループホームでの勉強会など他グループホームとの交流を大事にしており、かつ定期的にその機会を持っている。また、医師会主催の医療・介護に関する勉強会に積極的に参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の面接時から利用者の求めている事を聞く機会を作り、入居後も生活の変化に配慮できるように利用者との信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込を受けた時点から入居まで定期的にご家族に連絡をすることで、家族の思いや悩み、困っている事などを聞く機会を設けている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み者及び利用者の現状を考慮し、適切なサービス利用が受けられるように相談に乗っている。また、申込者の緊急性に応じて柔軟な利用案内の連絡を行っている。その他、必要に応じて同事業所内の介護サービスの紹介や他グループホームの紹介などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の生きてきた経緯を把握した上で、本人の気持ちを大事にし、その方のできること、できなくなったことに対して、さりげない支援に努めている。また、昔の暮らしや生活の知恵など教えてもらったりとお互いに支え合う関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に利用者の今を理解してもらった上で、出来る限りこれまでの暮らしが継続できるように、家族と共にできることを考え、利用者を支えていくよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と相談し、なじみの場所や人との関係が途切れないよう、お盆や正月などの家庭の年中行事や地区行事への利用者の参加を促し、ご家族と相談し必要があれば職員も付き添うよう努めている。	家族の面会、親戚の人や近所の人、知人、友人、法人内他事業所の職員などの来訪がある他、電話の取っぎなどの支援をしている。年4回、職員が自宅に利用者を招いて交流している。家族の協力を得て法事への参加、墓参り、外食、外泊など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの気持ちを尊重し、利用者同士が支えあえるように努めている。耳が遠い方、思いや気持ちを伝えることが難しい方など職員が間に入り利用者同士の関わりの橋渡しを行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ターミナル期の関わりから葬儀、法事まで利用者ご家族と共に関係を継続的なものに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、ご本人やご家族から得た情報を生活の中に活かし、ご本人本位の暮らし方や思いを大切にしている。	フェイスシートやセンター方式のシートを活用している他、日々の関わりの中での利用者の言葉や様子、心身の状態などを日常記録(センター方式)に、細かく記録して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族から聞き取りをしたり、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までの生活歴やなじみの暮らし方をご家族及び関係者から面会時の会話や生活歴シートを活用することで情報収集し把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や心身の状態を細かに記録し、その人の生活リズムやできること、できないこと等現状の把握に努めている。また、利用者の生活リズムに合わせた食事時間、入浴時間などに対応している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人との会話や行動からケアのあり方について考えている。また、ご家族やその他関係者から情報収集し介護計画に反映するようにしている。	月1回の定例カンファレンスで、本人の思いや家族の意向、医師の意見などを参考にして、全職員で話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施して見直しをしている他、利用者の状態の変化に応じて見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式を使用した日々の記録や定例カンファレンスの場を活用し、利用者の情報を見直し全職員が情報を共有することによりケアの改善を行なっている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療母体及びその他の介護サービスもあり、必要に応じた対応ができるよう努めている。その他、医師による定期往診や訪問看護や他の事業所の利用者、職員とのなじみの関係づくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア(体操、公文)等と協力し、利用者の余暇生活の充実に努めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医をご家族、本人から聞き入れ、円滑に支援が受け入れられるよう要望を聞き入れている。また、必要に応じてかかりつけ医の受診に付き添い適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者それぞれの医療機関の他、事業所の協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関から毎週火曜日に訪問診療がある。必要がある利用者には、訪問歯科診療が受けられるように支援している。他の医療機関には家族の協力を得て、事業所が受診の支援をしている。法人の看護師が、利用者の日常の健康状態を把握して支援している。緊急時や夜間は、協力医療機関と連携して対応しているなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療母体である医院の看護師が定期的に利用者に関わっているため、日常の変化や状態などを相談できる環境にある。相談については、電話やFAXを活用して情報共有しやすいように取り組んでいる。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、医師及び看護師と連絡調整を取りながら早期退院ができるよう努めている。また、職員がこまめに面会に行くことにより利用者の不安や変化など現状把握し、退院後のケアに繋げている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の心身の状態に応じて段階的に、かかりつけ医、利用者、ご家族、その他関係者と相談しながら終末期をどのように過ごすかということを密に話し合い、可能な限り希望を叶えられる体制を整えている。	重度化や終末期に向けて事業所のできる対応について、契約時に家族に説明し、同意書を得ている。実際に重度化した場合は、かかりつけ医に相談し、家族や関係者と利用者が終末期をどのように過ごすかを話し合い、方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	各種マニュアルを揃えている。また、個別の事故防止方法を職員で話し合い、そのことが職員全体に行き届くよう定期的に検討する機会を設けている。	事故報告書やヒヤリハット報告書はあるが、年間を通して記録はヒヤリハット2件のみである。利用者一人ひとりの事故防止への取り組みまでには至っていない。事故発生時に備えての応急手当や初期対応の訓練は実施していない。	・事故防止への取り組み ・応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	発生時のマニュアルを整えており、緊急連絡網や協力体制など地域との連携も取れている。。また、年1回消防機関を招いて避難訓練、消火訓練、緊急通報連絡訓練の実施を行っている。	年2回、消防署の協力を得て、拠点施設合同での夜間を想定した避難、消火、通報訓練を地域の人(運営推進会議メンバー)2名も参加して行っている。事業所独自で夜間想定での避難訓練を実施している。事業所の緊急連絡網に地域住民の参加を得たり、地域の防災会議に施設長が出席し、災害時の協力について話し合っている。施設は、地域住民の避難場所となっているなど、地域との協力体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしくを最優先に考え、利用者に精神的なダメージが最小限になるようケアに取り組んでいる。また、様々な心身の変化を捉え、誇りやプライバシー、自尊心を損ねることがないように努めている。	職員は、法人研修で接遇や権利擁護について学び、人権の尊重やプライバシーの確保について理解している。職員は利用者を人生の先輩として、敬意を払って接し、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人記録は保管し、取扱いに注意し、守秘義務を守るように徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位ではなく、あくまで利用者の持てる力を大事にし自己決定の機会がひとつでも増えるよう取り組んでいる。また、自分の希望を思うように伝えられなくなった利用者に対し、伝えることができていた段階の思いや表情や仕草などから読み取れる本人の思いをご家族と話し合いながら支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に無理強いをするのではなく、その人にあったペースで支援していけるよう努めている。本人に合った食事時間、場所の提供、希望に合わせた入浴時間の提供。希望の外出先やなじみの外出先への支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に、なじみの出張理美容を利用している。また、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう家から好みの服や小物を持ってきてもらっている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を大切に、好き嫌い、アレルギーなどに考慮しその場でも対応できるような体制を整えている。また、職員は利用者と同じ食事を共にすることで味覚の共有ができるように努めている。おかずの盛り付けや片付けなど一緒に行っている。	朝食は事業所で職員が調理し、昼食と夕食は法人からの配食を利用している。利用者の状態に合わせて、刻み食やとろみ食、おかゆなどで対応している。利用者は、下膳、テーブル拭き、食器洗いなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで、会話をしながら同じ物を食べている。ソーメン流しや誕生日会の食事や弁当持参での花見、道の駅でおやつを食べたり、移動パン屋でパンを買って食べるなど、利用者が食べることを楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの生活習慣に合わせた状態を把握し、食事や水分の確保できるような支援に努めている。例えば、嚥下状態に合わせて水分にとろみを付けたり、刻み食での提供をすることで、飲食しやすくしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりに合った口腔ケアの方法を実施しており、また困難な事例の場合には通院及び往診により歯科医の処置、指導を受けている。歯ブラシや義歯は常に清潔を保てるよう清掃、保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の記録を用いて、利用者の排泄パターンや習慣を活かせるよう支援している。また、居室にポータブルトイレを置くなど、その人に合わせて排泄環境を検討し整えている。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握して、利用者一人ひとりに応じた声かけや誘導でトイレでの排泄ができるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄パターン及び生活習慣を見直す機会を設けている。また、体操をして体を動かしたり、飲食物への工夫等、出来る限り薬に偏らない働きかけに努めている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間を定めておらず希望に添えるよう入浴できるよう支援している。また、体調不良で入浴できない場合には、リラックスしてもらえよう足浴や身体を拭くなどの支援を行っている。	入浴は毎日、15時から18時まで可能で、希望や体調に合わせて2日に1回はゆっくり入浴できるように支援している。利用者の状態に応じて特浴やシャワー浴、清拭、ドライシャンプーなどで対応している。ゆず湯にしたり、入浴剤を使用して色や香りを楽しめるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの就寝時間に応じて夜の居室支援を行っている。また、部屋の空調や明かりを、心身の調子や季節に合わせて変えている。日中は、部屋だけでなくリビングのソファでもくつろいで休息できるように環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬管理を行っており、日常服薬する薬及びその他の服薬に関し、副作用や効用など把握できるよう努めている。お薬手帳の整理、処方された薬剤情報表の管理や医師及び薬剤師への確認を行っている。また、症状の変化に応じて医師へ服薬の相談を行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を把握した上で、利用者一人ひとりに合わせた場面作りに努め、散歩やドライブなど楽しみごとや気晴らしの支援が出来るよう取り組んでいる。	テレビ視聴（歌番組、水戸黄門、相撲）やDVD視聴（お笑い番組）、歌を歌う、カラオケで歌う、新聞や本、雑誌を読む、ラジオ体操、リハビリ体操、ぬり絵、ちぎり絵での作品づくり、公文（計算、漢字、文字パズル）、音読、プリンターでの花や野菜づくり、テーブル拭き、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除など、利用者一人ひとりの楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、喜びや張り合いのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者のこれまで生活してきた地域への外出や定期的な帰宅や家族の元へ帰れる支援などを行っている。また、個別で外出など利用者の希望に応じられるよう外出先を限定せず出かける機会を提供している。	周辺の散歩や買い物、花見（桜、コスモス）、地域の文化祭の見学、花火大会見学、ドライブ、イルミネーションの見学、個別の夕食、家族の協力を得ての夕食、外泊など、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な利用者には金銭の管理ができるよう支援している。また、外出時には金銭を渡し利用者ができる限り自己決定ができるよう努めている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームでは希望があった際、ご家族やその他関係者に電話や手紙などで連絡が取れるよう体制を整えており、利用者一人ひとりに合った支援ができよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光を十分に取り入れ、それぞれが落ち着ける椅子やソファを置き、テーブルには季節の花を飾るなど、利用者にとって過ごしやすい生活環境になるよう工夫している。特に、台所、トイレ、浴室等においては臭いや汚れによる不快感を与えないよう配慮している。	事業所は2階に位置している。共用空間は、高い天井の天窓からや、ベランダ側の大きな窓から、自然の光が差し込んで明るく広々としている。リビングには、テーブルや椅子、テレビやソファを配置してある他、ベランダにベンチを置いて、利用者が思い思いの場所で過ごせるように工夫している。テーブルに季節の花を生けたり、壁面に季節感のある作品を飾って季節感を採り入れている他、ベランダから遠くの間々が見えて季節を感じることができる。温度や湿度、換気に配慮して、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	慣れ親しんだ場所及び安心できる空間を提供している。なじみのソファやテーブルなどを用いて、それぞれが思い思いに過ごせるよう工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の活用や希望に応じて畳を敷く等、利用者の慣れ親しんだ居室を保つことで安心して過ごせるよう支援している。また、入居時に利用者及びご家族から利用者にとってのなじみの空間を作る大切さを話し合っている。	ダンス、テレビ、椅子、寝具など使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、ぬいぐるみや日本人形、カレンダー、家族の写真などを飾って、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの「できる」「わかる」力を把握し、個別の状態に応じて工夫している。例えば、洗濯物干しや食後の片付けなど利用者が動きやすいようにテーブルや椅子の配置を工夫している。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム夜市のんた

作成日：平成 29 年 6 月 1 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	入居者一人ひとりの事故防止への取り組みが整っていない。	入居者一人ひとりの状態、特性を考慮した事故防止への取り組みをしていく。	入居者一人ひとりの状態に応じた事故防止策を日々の生活の中で集めた情報を基に作成し、全職員で共有する。	1年
2	14	勤務の都合で外部研修への参加が難しい。	勤務調整を行ない、出来るだけ外部研修へ参加できる体制を整える。	外部研修への参加を充実させる取り組みを行なうと共に、内部研修の充実も図る。現在実施している法人内研修において外部講師を招いての研修を計画する。	1年
3	3	外部評価への理解が共有できていない。	外部評価の意義を全職員で共有理解し、活かせるように取り組む。	内部研修の機会や入居者の生活状況の情報収集、ケアを検討する際に評価項目に沿って照らし合わせる事で理解を深める。	1年
4	4	構成メンバーを拡充出来ていない。	構成メンバーの拡充。	地域への働きかけをより意識し、事業所の運営や取り組みの理解を進めると共に、推進会議への参加協力を呼び掛けていく。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。